

ユーゴスラヴィヤの気象事業 (その1)……口絵写真参照

大 井 正 一

1. はしがき

去る4月2日から26日まで、ベルリンでの友人ポーエ氏の胆いりでユーゴスラヴィヤ気象局より招待を受け各地の気象台、測候所、山岳連盟等で視察、見学、講演、座談会を行った。それらの一々についての詳しい報告は測候時報に掲載する予定なので、ここでは気象学上で特に興味ある事をお話したい。日本の気象に関する知識は非常に僅かしか知られていないので、特に次の点に関する紹介が興味を持たれた。

梅雨、台風、北陸豪雪、山の気象、産業気象、数値予報、冬の旋風の予報、低気圧の構造、ラジオ天気図、気象カレンダー、ベビーマップ、気象事業のあり方。

訪問した場所は次の如くである。(*印は講演)

Zagreb (気象台*, 高層測候所, 気球会社, 肉工場, Srijeme 山岳測候所, 同特殊気象観測所, 山岳連盟); Split (海洋気象台*, 海洋研究所, Marjan 山頂測候所 Meštrovic Garellie, Trogir 古跡); Rijeka. (市街); Pula (測候所, Amphitheater); Ljubljana (気象台*, 山岳連盟*, 大学気象教室, Kranj 墓地, Cerknica 湖, Postojna 洞窟, Pred 洞窟, Bled 湖); Beograd (大学気象教室*, 気象庁, 気象台, 気象研究所, 測器研究所及工場, 高層観測所, Avala 記念塔, 大使館)。

ユーゴスラヴィヤ連邦共和国は図の如き6つの共和国の連邦である。西半分では Slovenia, Kroatia 語 (Slovenski, Hrvatski) を話し、ローマ字を用いカトリック教が行なわれ、東半分では Serbia 語 (Srpski) を話し、Cyrill 文字を用い、ギリシャ正教が行なわれている。ドイツ占領当時はドイツ語が行われ、戦後ロシア語や英語が行なわれたが、第二外国語は年齢層によって大差があり、私はドイツ語を用いた。各地の講演は各土地出身の職員により通訳されたが、Ljubljana 気象台のみはオーストリアに近いので、全く通訳を必要としなかった。

2. 気象庁の組織

全ユーゴ気象庁に相等するものは Beograd にある Savezni hidrometeorološki institut である。

各国の主都には夫々気象局 Hidrometeorološki Zavod があるが、これは日本の管区気象台に相等するものである。然し気象庁の管理は余り受けて居らず殆んど独立したものである。気象局は Hidrometeorološki Zavod と呼ぶから通訳すれば水理気象研究所と云うことになり、水理が大きな比重を占めて居ることと、研究所的色彩の強いことを示している。気象庁では水理気象、気候、長期予報、水理の四部分に分れて居り、主に気候図の様なものを調査している、観測課、気象研究部、測器工場及検定施設はラジオゾンデ観測所と共に山の上にある。

気象局の方は私の主に滞在した Zagreb を例にとれば、気候部、シノプティック高層部、農業気象部、水理部、海海洋気象部の五部に別れている。気候部には統計課、図書課、研究課、応用気象課等がある。シノプティック高層部には予報課と高層観測所が属しているが、予報課は通報課も含めて飛行場にあり、高層観測所は地上観測所と共に草原の中の様な広い所にある。農業気象部には農業気象課、生物気象課がある。水理部には地下水課、水理課、研究課等がある。海洋気象部は Split にある。下部組織としては、クロアチア共和国内で気候雨量観測所が700ヶ所、山岳測候所が2ヶ所、パイロット観測所が4ヶ所、シノプティック観測所が29ヶ所あった。

(未完)。

